

## 居合道を続けて17年、全剣連の「六段審査」に、「初めて」の挑戦！！

2024年6月28日（金）、福岡県の久留米市総合スポーツセンターで、「全日本剣道連盟」による、「居合道六段」の「昇段審査」が開催された。

六段審査の「受審資格」、①2019年6月以前に五段を取得し5年以上修練した者、②太刀は「真剣」とし「下げ緒」を結束する、を満たした「挑戦者80名」が全国から参集しました。

2024年の6月下旬は、北九州地方に、線条降水帯が停滞し、毎日集中豪雨が続いた大変な時期でした。

久留米市総合スポーツセンターは、二階に観客席のある巨大な体育館、天井は吹き抜け構造で、エアコンはなく、床が湿気でベタベタでした。

腰を落とし、スリ足が基本の「居合道」にとって、床のベタベタは難行でした。



### (1)「稽古漬け」の毎日！！

私は、2008年4月1日に、「東京都剣道連盟」の「台東支部（120名所属）」に入会しました。入会から11年後の2019年3月に「五段」を取得。

コロナのさなかの2021年11月から、2024年6月の「六段審査」を目指して、「火木土」の週三回、「審査稽古」をはじめました。

予期せぬ幸運は、2024年3月に「教師七段の伊藤四朗先生」にお目に掛かり、「火木の稽古日」には、先生から「劣る箇所」の具体的な指摘とその修正方法について、ご指導を頂くことが出来ました。

このため、3月から6月まで毎週2回「火木の稽古日」に伊藤先生から具体的なきめ細かいご指導を頂き、稽古の翌日の「水金」には、一人で柏市の剣道場を借りて、修正稽古に励みました。

3月から6月までの三か月間は、「審査稽古」にのめり込んでおりました関係で、社友会の「全国大会」や関東支部の「懇親会」など、社友会の「総ての行事を欠席」せざるを得なくなり、申し訳ありませんでした。

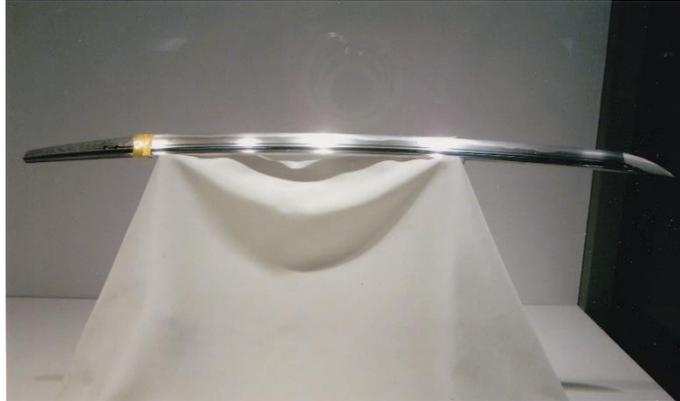
## ★「居合道」って？ ご存じでしょうか？

空手は、「素手」で、仮想敵と戦う「型武道」です。

居合道は、「日本刀」で、仮想敵と戦う「型武道」です。

剣道は、最初から「竹刀を構えて」、相手と打ち合います。

居合道は、仮想敵への「緊迫の目付け」と「鞘から抜き付ける一刀目」が命。続く「二刀目」で仮想敵を倒し、スキのない「血振り」と「納刀」を終え、「開始線」に戻って、「一本の技」が完結です。



## ★「居合道」の源流は？ 「全日本剣道連盟」とは？

室町末期の「林崎甚助を始祖」とする「抜刀術」は、450年の間に夢想神伝流、英信流、田宮流、無外流など、幾多の流派に分かれました。

全日本剣道連盟は、「剣術」を「剣道」に改名したように、流派を超えて「抜刀術」を「居合道」に名称統一しました。

更に、全日本剣道連盟では、「各流派の要の技」を集合して、全国共通の「全剣連の技12本」を制定しました。

そして、「全剣連の制定技12本」の「教本」と「指導書」に基づいて、「全剣連」の「昇段制度」を確立しました。

「昇段制度」は、剣道の「昇段制度」と、ほぼ同じです。

## ★「昇段審査」は、いつ？ どこで？

「初段から五段まで」の「昇段審査」は、「年二回」、9月と3月に開催。

「都道府県」の「県剣連」が主催し、都道府県ごとに開催します。

「六段、七段、八段」の「昇段審査」は、「年二回」、6月と11月に開催。

「全日本剣道連盟」が、主催します。

「審査会場」は、「6月」は、各「県剣連」が「持ち回り」で、全国一か所で開催。

「11月」は、東京都の「江戸川区スポーツセンター」で開催。

コロナ明けの2023年3月に、「京都武道センター」の開催を追加。

## ★「居合道」の競技人口は？

約20万人。うち女性が約30%です。

「大学」には、「居合道部」があります。

「高校」には、「居合道部」はありません。（日本刀は危険？）

このため、「居合道」の競技人口は、①大学生、②大学から続けている人、③あこがれて始める3, 40代、④剣道の高段者、⑤定年後に始める人の5種類です。

## (2)「六段審査」に、「初めて」の挑戦！！

「六段審査」は、高齢者から行うため、高齢順に4名ずつ10組40名だけが、胸にゼッケン番号「1A」から「10D」を付け、会場の「椅子」に着席。

私の「ゼッケン番号」は、最高齢の「1A」でした。

挑戦者80名のうち、残る「壮年」の40名は、コロナ対策のため審査会場から追い出され、別棟の柔道場や剣道場で待機させられた。

予め伊東四朗先生より、床の湿気対策は、隅のほこりを足裏に付けて、スリ足が出来るようにすること、とのアドバイスを頂きました。

私の「ほこり集め」を見て、沢山の方々が不思議そうに見ていましたが、そのうちに皆さんも真似をしておりました。

当日発表された「指定技6本」を「7分以内」の演武は、我ながら落ち着いて、稽古通りに演武が出来ました。

しかし、6本目の「スリ足で抜き付ける」際に、左足がベタベタの床に引っ掛かって、思わぬミスをしました。

それでも、なんとか行けるんじゃないかと、「淡い期待」がありました。

しかし、合格発表の「ゼッケン番号の表示板」には、無情にも「1A」はなく、過ぎ去った稽古漬けの日々を思い出し、落胆が尋常ではなかったです。

重ねて、審査会場から追い立てられるように「帰宅命令」が出て、体育館から退去させられました。

金曜日の福岡空港は、退社時刻になると、帰京の「博ちゃん族」で満ち溢れ、飛行機が満席になります。

加えて、「日本刀」は、カウンターで「銃刀保管箱」への預託手続きに時間が掛かりますので、土産物を買っている余裕もなく、弁当だけ買って、あたふたと福岡空港を飛び立ちました。

### **★「審査会場のレイアウト」は？**

長机3個を「横一列」に並べ、「八段の審査委員6名」が居並ぶ。

審査員席の長机から10m手前には、演武の「開始線」が、左右に4名分、5m間隔で引かれている。

更に、開始線から10m手前には、「椅子」が4列10脚ずつ、合計40名分配置。

### ★「合否の判定」は？

審査委員長の「入場！」の号令に、最前列の4名が「開始線」まで進む。「始め！」の号令で、当日指定された「指定技6本」を「7分以内」に演武。

「交代！」の号令で、開始線から後退して2組目の4名と入れ替わり、最後尾の「椅子」に着席する。

審査委員6名は、「交代！」の合図と共に、演武者4名の夫々の審査用紙に「○×」を付け、係員が「即刻回収」する。

「○が4個以上」の受審者は「合格」、3個以下は不合格となる。

### ★「審査結果」の「発表方法」は？

4名ずつ10組40名の演武が終了後、「審査結果」が「ゼッケン番号」で発表され、「合格者は8名」でした。

審査結果の発表と同時に、コロナ感染防止のため、受審者40名の全員に帰宅命令が出された。

全挑戦者80名のうち、27名が合格、合格率33.8%と知ったのは、一週間後の「全日本剣道連盟のHP」でした。

### (3)「極めて貴重な情報」を入手！！

その後、合格した方から「極めて貴重な情報」を入手しました！！

湿気で床がベタベタ状態への「対処方法」は、足の裏に「フットデオドラントスプレー」を吹き付けると、夢のようにスリ足が出来るようになるとのこと。

「次回の六段審査」への再挑戦では、絶対に「フットデオドラントスプレー」を足裏に吹き付けて、万全を期したいと誓いました！！

2025年 1月 8日記  
関東支部会員 平田泰生